

経済学部の3つのポリシー

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

経済学部では、以下の方針に従い、学士の学位を授与する。

1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の社会経済の諸事象を説明できる。
2. 社会経済が抱える諸問題を理解し、それに取り組む意欲・能力があり、主体的に考え、自律的に学修できる。
3. 他者と協調・協働しながら、社会の一員として守るべき規範やルールに従って行動できる。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

経済学部では、段階的・体系的に経済学を学ぶことができるように、以下のようにカリキュラムを構成する。

1. 学部共通で経済学の基礎科目を設け、その他各コースの目標に対応した専門科目を配置する。
2. 各コースにおいては、基礎的な科目と専門科目を体系的に学修できるように配置する。
3. ゼミナール等の少人数による学修を通じて、他者との相互理解を深め、協調・協働しながら、問題発見能力やコミュニケーションを通じた問題解決能力等の社会の一員として行動できる能力を身につけるための科目を配置する。

(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

経済学部では、次の意欲と能力を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 入学前に経済学を学ぶ上で必要な基礎学力を持ち、大学での学修に、主体的に取り組もうとしている人。
2. 社会経済に関して幅広い関心を持ち、経済問題について説明できる人。

商学部の3つのポリシー

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

九州産業大学は、建学の理想である「産学一如」を実現すべく、「広く産業界の期待に応えられる『実践力』『熱意』『豊かな人間性』をもった人材を養成する」という目的を掲げている。商学部は、この理想と目的のもと、学士教育課程が定める卒業要件の充足をもって、次の資質と能力を有するものとし、学士の学位を授与する。

1. 実践力：社会的課題に対して組織的かつ主体的に取り組み、その結果を検証することができる。
2. 熱意：専門知識を体系的かつ網羅的に有し、社会的な認証の取得に努めることができる。
3. 豊かな人間性：大学における幅広い人的交流を通じて、様々な教養・文化に自ら触れ、自己の成長に繋げ、フォロワーシップ・リーダーシップを発揮することができる。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

(1) 編成方針

1. 1年次は、安全・安心な人間関係と基礎的な学修態度の構築を主要なテーマとする。「基礎教育科目」「外国語科目」「留学生に関する科目」に加えて、専門科目として「入門科目」を置き、大学生活への適応を図る。また、1年次から意欲ある学生への対応を図る。
2. 2年次は、基礎的な知識の修得を主要なテーマとする。「資格・教職科目」「情報関連科目」「国際関連科目」からなる「共通科目」を中心に、資格取得を視野に基礎知識の修得を図る。また、「企業経営」「会計・ファイナンス」「マーケティング」の各コースについて「基幹科目」を置き、専門科目への適応を図る。
3. 3・4年次は、主体性と実践力の養成を主要なテーマとする。実践的内容を含む「展開・応用科目」を置き、コースとプログラムが目的とする専門知識と能力への適応を図る。以上により、本学部のディプロマポリシーの実現を図るため、次のように教育課程を編成する。

(2) 実施方針

ディプロマポリシーを実現するため、「実践力」「熱意」「豊かな人間性」の修得を目的としたカリキュラムを実施する。

1. 「実践力」については、理論に沿いながらも創意工夫に満ちた応用によって課題の発見と解決につながるように、そして演習の現場においては主体的・対話的な学生間の協働を促す。
2. 「熱意」については、体系的な学びを一定の水準以上へ到達できるように、学生の段階に応じた課題や教材を適切に提供し、学生が自らの目標に対して真摯に行動する環境を構築する。また、その成果が資格や検定等、学生の就職活動において有益なものとなるように留意する。
3. 「豊かな人間性」については、1年次の人的交流をきっかけとしながら、様々な授業科目において主体的・対話的な学びの中で獲得するものとし、他学部学生や外国人学生との交流も促すように留意する。

(入学者受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

商学部は、ディプロマポリシーを実現するために、次のような資質・能力を持つ人物を受け入れる。

1. 現代社会に対して問題意識を持ち、課題を解決するための考えを表現できる。
2. 学業・課外活動等において、高等学校卒業相当として優秀と判断され得る実績を有する。
3. 企業活動全般に関心を有し、将来、これへ参画する意思を具体的に有する。
4. 他者との活動に意義を見出し、積極的に他者とのコミュニケーションを図ることができる。

地域共創学部 の 3 つのポリシー

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

地域共創学部では、本学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、グローバルに活躍でき、かつ地域を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技能を兼ね備え、社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために教育課程の中から指定された単位を含め、124単位以上を修得し、共創的な相互作用の発現に必要な幅広い教養、専門的知識、課題解決能力を身につけた者に対して学士の学位を授与する。

《観光学科》

観光学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 観光学に関する基本的知識を修得している。
2. 観光の諸問題を理解して課題を発見し、論理的に分析し考察する力を身につけている。
3. 九州・アジア、そしてグローバルに生起する観光の諸問題に積極的な関心を持ち続けることができる。
4. 観光の諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・検討・整理・統合する力を身につけている。自らの思考・判断のプロセスを明確に説明し、文章で表現する力を修得している。
5. 自主的な学習を通じて社会に参画し、諸問題を解決する実践的能力を修得している。

《地域づくり学科》

地域づくり学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 地域社会に関する諸分野の基本的知識を修得している。
2. 地域の課題を理解し、幅広い教養知をもとに説明することができる。
3. 地域の課題を探る調査能力と、その課題解決力を身につけている。
4. 地域の活性化に寄与し、地域を共に創る協調性と実践力を身につけている。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

地域共創学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目および外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門教養科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示しつつ、各学科にそれぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようカリキュラムを構成している。

《観光学科》

大学及び地域共創学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、観光学科のカリキュラム・ポリシーを以下のとおり定めている。

1. 観光の基礎を学ぶ学科共通科目を設け、その他各コースの目標に対応した専門科目を配置する。
2. ホスピタリティ・ビジネスに関連する各産業を理解するための理論と演習科目を配置する。
3. 地域を観光によって活性化し、観光地のまちづくりをデザインしていくうえで必要な理論と演習科目を配置する。
4. 観光を学ぶために必要な基礎科目については、必修科目、選択必修科目、全員履修科目とする。

《地域づくり学科》

大学及び地域共創学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域づくり学科のカリキュラム・ポリシーを以下のとおり定めている。

1. 地域づくりを学ぶ学科共通科目を設け、その他各コースの目標に対応した専門科目を設置する。
2. 行政の基礎知識を身につけるため、法学、行政学系の理論と演習科目を配置する。
3. 地域の課題を解決する社会調査の理論と実践力を身につける演習科目を配置する。
4. 地域づくりを学ぶために必要な基礎科目については、必修科目、選択必修科目、全員履修科目とする。

《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》

九州産業大学のアドミッション・ポリシーを受けて、本学部では、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、観光や地域の活性化に関心があり、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる人

《観光学科》

大学及び地域共創学部のアドミッション・ポリシーに基づき、観光学科のアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。

観光学科では、上の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 地域を観光で活性化することやホスピタリティ産業に興味があり、学習意欲が高い人
2. 社会の諸問題を多面的に考察し、自分の考えを論理的に表現できる人
3. 外国語や深い教養を身につけて、グローバルまたはローカルで活躍したい人
4. 海外や地域に出向き、積極的な行動力と実践力を身につけたい人

《地域づくり学科》

大学及び地域共創学部のアドミッション・ポリシーに基づき、地域づくり学科のアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。

地域づくり学科では、上の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 地域の活性化や振興に興味があり、学習意欲が高い人
2. 社会の諸問題を多面的に考察し、自ら解決し、地域の発展に寄与したい人
3. 自らの意志で地域に深く入り込み、その地域ならではの課題に向き合うことをいとわない人

理工学部 の 3 つ の ポリシー

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

理工学部においては、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と各学科（情報科学科、機械電気創造工学科、スマートコミュニケーション工学科）における基礎的な専門知識を修得し、かつ専門知識を様々なアプリケーションに活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術者としての倫理観を身に付け、創造力・実践力を発揮できる。
4. コミュニケーション能力を有し、地域社会の発展に貢献できる。
5. 情報メカトロニクスに関わる技術・技能を活用することができる。
6. 技術者として必要な情報技術を活用することができる。

《情報科学科》

情報科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 情報技術及び情報数理における基礎的な専門知識を修得し活用でき、情報システム、AI・情報デザイン、数理・情報科学の分野又は情報分野を基盤とした機械・電気工学の分野において活躍できる。
2. 高い倫理観を持った技術者として円滑なコミュニケーションを図りながら地域社会の発展に貢献できる。

《機械電気創造工学科》

機械電気創造工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 機械工学、電気電子工学、情報技術の幅広い知識とスキルを有し、AI やデータサイエンスなどの先端技術と融合させながら、創造的かつ実践的なエンジニアリングを遂行できる。
2. 現実の技術課題に対して、論理的思考力と問題解決能力を発揮し、広域的・複合領域的な視点で設計・開発・評価を行う能力を備えている。
3. 産業界や社会との連携を意識しながら、チームでの協働やプロジェクトマネジメントを通じて、技術的成果を現実社会に実装できる。

《スマートコミュニケーション工学科》

スマートコミュニケーション工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 工学をベースに様々な知識を統合し、AI やデジタル技術とそのアプリケーションを活用しながら、文理芸の連携を通じた創造力・実践力を発揮することができる。
2. コミュニケーションエンジニアとして必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を発揮し、地域社会の発展に貢献できる。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

理工学部では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程を編成・実施している。

1. 自然科学の仕組みを理解する幅広い知識を養うための KSU 基盤教育、産業界・地域社会の要望に応えるための専門教育
2. 学部単位で仲間と助け合いながら、チームで課題解決に取り組むプロジェクトデザイン教育
3. 協調性・主体性・積極性・独創性を育み、コミュニケーション力・課題解決力を養い、理工学分野において付加価値が高い技術を生み出すための教育
4. モノづくり等の生産現場で活躍するための教育

《情報科学科》

情報科学科では、学部のカリキュラム・ポリシーの要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 数学的な理論的基礎を幅広く学び、思考力、分析力、表現力を身に付ける教育
2. 情報および計算機科学の分野の基礎を体系的に学び、それを応用できる教育
3. 演習、実験、プロジェクト、ゼミナール等で情報技術の活用を実践する教育

《機械電気創造工学科》

機械電気創造工学科では、学部のカリキュラム・ポリシーの要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 理工系基礎から専門・応用分野（機械、電気電子、AI、メカトロニクス等）まで段階的、横断的に学べる体系的な教育
2. 学生の志向に合わせた選択ができるよう、科目を適切に区分し、主体的・自律的な学修を支援する教育
3. 実験・実習・PBL 教育を通じて実践力・創造性・課題解決能力を育み、社会で活躍できる技術者を育成する教育

《スマートコミュニケーション工学科》

スマートコミュニケーション工学科では、学部のカリキュラム・ポリシーの要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 工学的知識、AI・データサイエンス、デザイン、マーケティング等の知識を統合し、複雑化する社会課題を解決する専門教育
2. 文理芸の学びにより、モノを形にするため知識・技術の修得に取り組み、自律的にプロジェクトを実践し、その結果を社会実装するための教育
3. 課題解決能力を伸ばすプロジェクト型教育を通じて、創造力、実践力、考察力を育み、社会に結果を効果的に発信できる能力を育成する教育

《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》

理工学部に関連する学術分野で、創造的活動を行う人材と人間性豊かで国際的視野を持った人材を育成するために、次のような学生を受け入れる。

1. 情報科学・機械工学・電気工学又は情報メカトロニクスに興味がある人
2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人
3. 客観的な視点で物事を判断でき、自分の考えをまとめることができる人
4. 情報メカトロニクスに関連する分野の研究者・教育者を目指している人

《情報科学科》

情報科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 情報技術や情報数理に強い興味を持っている人
2. 情報科学に関する専門知識を身に付けようとする意欲が高く、技術の修得にも積極的に取り組む人
3. 情報分野を基盤とした機械工学や電気工学に関心を持ち、多面的な視点から創造活動を行うことを目指す人、修得した知識を生かして地域社会に貢献したいと考えている人

《機械電気創造工学科》

機械電気創造工学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 機械工学と電気電子工学に興味を持っている人
2. 学際的な視野と創造的な思考を身に付けようとする意識が高く、修得した技術・技能を活用して、これからの複雑な技術的課題に挑戦する意欲ある人
3. 学修の成果を機械工学と電気電子工学に関連する業務の現場で適切に活用して、地域社会に貢献したいと考えている人

《スマートコミュニケーション工学科》

スマートコミュニケーション工学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 工学系の基礎知識に加え、AI やデータサイエンスなどの先端技術を学び、多文化的な視点を活かしたコミュニケーション能力を身に付けたい人
2. チームで協力しながら社会課題の解決に貢献したい人
3. 論理的思考力や探究心を持ち、多様なバックグラウンドを尊重し、柔軟で創造的にプロジェクトに取り組みたい人

生命科学部の3つのポリシー

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

生命科学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し学位を授与する。

1. 社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を備えている。
2. 化学又は生物学領域の基礎的知識と専門的知識を理解し、活用することができる。
3. 化学又は生物学領域の実験技術を修得し、結果の分析や考察を通して成果をまとめ、発表することができる。
4. 生命科学、応用生物学、食品科学又は応用化学分野に関する課題を積極的に発見し、解決方法を思考することができる。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

生命科学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。

1. 一般教養科目を通して、社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を身に付ける。
2. 化学又は生物学を基盤とした複数領域の専門科目を通して、生命科学、応用生物学、食品科学又は応用化学分野で必要となる専門知識を身に付ける。
3. 系統立てた複数の実験科目を通して、実験技術や論理的思考力を身に付ける。
4. 卒業研究及び卒研ゼミナールを通して、課題発見能力や問題解決能力を身に付ける。

(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

生命科学部は、次の能力・意欲を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 専門分野を学ぶ上で必要となる理科、数学、国語、英語等の基礎学力を有する人
2. 化学又は生物学領域の専門分野に興味があり、知識や技術を活かして社会に貢献したいと思っている人
3. 広い視野と公平・公正な判断力を養うために、幅広い学問領域についても学習する意欲のある人
4. 学内外の様々な活動に対して、協調性を持ちながら積極的に取り組むことのできる人

建築都市工学部の3つのポリシー

《学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー》

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士（工学）を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力
6. 情報技術を活用することができる能力

《建築学科》

建築学科では、次の資質・能力を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築の計画・設計、歴史・意匠、構造・生産、材料・構法、環境・設備、都市計画など建築学に関する体系的な知識と技術・技能を修得し、実務に応用できる基礎力を備えた学生
2. 課題発見力や協働的な創造力を発揮し、社会や地域の課題に主体的に取り組む実践力を身につけ、発展的な学びを通じて専門性をさらに高めた学生

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー》

建築都市工学部では、KSU 基盤教育と専門科目の正課教育を行うと同時に KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外教育を行う。

1. 国土強靱化、インフラ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効活用などの広く社会の期待に応えるための建築都市工学分野に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築都市工学分野において地域に貢献する人材を育成する。

《建築学科》

建築学科では、建築の計画・設計、歴史・意匠、構造・生産、材料・構法、環境・設備、都市計画などの各分野を体系的に学ぶ専門教育を通じて、地域社会や産業界で活躍できる建築技術者を育成する。また、専門分野をより深く探究し、実践的な課題に取り組むアドバンスト科目などの発展的教育機会を設け、意欲ある学生が課題解決力と応用力を高められる環境を整える。

1. 広く社会の期待に応えるための建築学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を備え、建築学分野において地域社会に貢献する能力を育成する。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計及び関連する技術・技能に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための住居・インテリア学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、住居・インテリア学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、従来の土木工学における基礎的学問領域に加え、「土木デザイン」「地域・都市防災」「まちづくり」「環境緑化」分野及び技術士養成プログラムにおいて応用知識やエンジニアリングデザイン能力に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための都市デザイン工学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、都市デザイン工学分野において地域に貢献する能力を育成する。

(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

建築都市工学部は、工学における基礎的知識をベースに、国土から住まいまで連続する空間のあり方を追求する広い視野を持ち、多様な社会ニーズに応えることのできる実践的能力を有した人材養成のため、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築都市工学に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築都市工学分野において卓越した能力を持っている人

《建築学科》

建築学科では、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築の計画・設計、歴史・意匠、構造・生産、材料・構法、環境・設備、都市計画など建築学を総合的に学ぶ意欲の高い人
2. 課題を発見し、多面的に考察しながら自分の考えをまとめ、他者と協働して表現できる人
3. 発展的な学びや実践的課題に主体的に取り組み、将来アドバンスト科目などを通して専門性をさらに高めようとする意欲をもつ人

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に対して強い関心があり、住まう空間・働く空間・商空間の在り方、リノベーション、住環境評価、災害レジリエンスに関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 住居・インテリア学分野において卓越した能力を持っている人

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 持続可能な環境づくりや、災害に強く、安心・安全で美しく住みやすいまちづくりに関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 都市デザイン工学分野において卓越した能力を持っている人

都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースが育成しようとする技術者像と履修者の受け入れ方針

(育成しようとする技術者像)

都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースが目指すべき人物像は、「実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者である。具体的到達目標は幅広い学問的知識を修得し、地球環境に配慮できる素養を身につけることである。」と定めている。

(履修者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースでは、以下の条件を3年次配当科目の履修登録時に満たしている学生を受け入れる。

1. 都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースが育成しようとする技術者像を目指す意欲を有する学生
2. 都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースの修了に必要な学修の基礎が修得できている学生

芸術学部の 3 つのポリシー

《学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー》

芸術学部では、アーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者として次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 芸術の各分野における幅広い知識を備え、適切に活用できる。
2. 芸術の各分野における技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 高い知性と豊かな感性を備え、社会と文化の発展に貢献できる。

《芸術表現学科》

芸術表現学科はアーティスト、クリエイター、研究者として次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 自律した豊かな思考理論と学際的な専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 高度な表現技術と表現技法を修得し、優れた創造力と審美力を発揮できる。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術の芸術表現を通じて、芸術文化の創造に主体的に貢献できる。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科はスペシャリストとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する今日の社会の要求に素早く対応する幅広い教養と専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 自己を発信する技術・技法を修得し、想像力・実践力を発揮できる。
3. 写真や映像メディアを通じて主体的に社会と文化の発展に貢献できる。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 現代社会における多様なビジュアルコミュニケーションの専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 編集や伝達に関する技術・技法を修得し、表現力・実践力を発揮できる。
3. グラフィックデザイン、イラストレーションデザインを通じて社会と文化の発展に貢献できる。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する社会において、豊かな暮らしや環境をつくる専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 造形や構成等の技術・技法を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. プロダクトや工芸、空間演出それぞれのデザインを通じて社会と文化の発展に貢献できる。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 将来の地域社会のブランドづくりのための専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 情報伝達や企画構築の技術・技法を修得し、提案力・実践力を発揮できる。
3. 情報デザイン、企画デザインを通じて地域文化や地域産業の発展に貢献できる。

《教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー》

芸術学部は、次の方針で人材を育成する。

1. 芸術の各分野の幅広い知識と技能を通じて、高い知性と豊かな感性を培い、社会と文化の発展に貢献する人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と各専門分野の教育を行い、「基礎的教養」「専門的知識」「論理的思考力」「実践力」「コミュニケーション力」「主体的行動力」を備えた人間性豊かな人材を育成する。
3. KSU プロジェクト型教育及び多様な専門教育を学び、芸術の各分野で実践できる人材を育成する。

《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな思考理論を培い、次世代の芸術文化を主体的に創造できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と芸術表現分野の教育を行い、高度な表現技術と表現技法を備える人材を育成する。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術分野のそれぞれの多様な専門科目と高度な技術を学び、芸術表現の分野で実践できる人材を育成する。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、幅広い教養を培い、写真、映像を通して社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と写真、映像メディア分野の教育を行い、自己を発信する技術と技法を備える人材を育成する。
3. 写真、映像メディアそれぞれの多様な専門科目と高度な制作技術を学び、写真・映像メディア分野で実践できる人材を育成する。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ビジュアルコミュニケーション能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識とビジュアルデザイン分野の教育を行い、高い編集力や伝達力を備える人材を育成する。
3. グラフィック、イラストレーションそれぞれの多様な専門科目と多様な表現技術を学び、ビジュアルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな暮らしや環境をつくる能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と生活環境デザイン分野の教育を行い、高い造形力や構成力等を備える人材を育成する。
3. プロダクトや工芸、空間演出それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、生活環境デザインの分野で実践できる人材を育成する。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ブランドづくりの能力を培い、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識とソーシャルデザイン分野の教育を行い、高い情報伝達力や企画構築力を備える人材を育成する。
3. 情報デザイン、企画デザインそれぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、ソーシャルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》

芸術学部は、次の能力・資質を持った人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、アートやデザインの分野に興味があり、創作意欲のある人
2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人
3. 客観的な視点で物事を判断でき、自己を発信できる人
4. 将来アーティストやデザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を目指している人

《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 美術・メディア芸術分野に興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的な技法から先端的な技術まで、好奇心を持って幅広く探求する人
3. 自由で豊かな発想と論理的な思考能力を持っている人
4. 芸術表現の分野に意欲的に挑戦しアーティスト、クリエイター、教育・研究者を目指す

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 写真や映像メディアの技術に興味があり、創作意欲のある人
2. 表現の基礎から先端的な技術までを幅広く探求する人
3. 芸術性や実用性について、多面的に考察できる能力を持っている人
4. 写真のスペシャリストや映像メディアの表現者を目指している人

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. ビジュアルデザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 社会におけるビジュアルコミュニケーションの機能や役割を探求する人
3. ビジュアルデザインを多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. グラフィックデザイナーやイラストレーター等のクリエイターを目指している人

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. プロダクトや工芸、空間演出それぞれのデザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 手加工によるモノづくりや新たなモノづくりの技術・技法や考え方を探求する人
3. 人間の生活環境を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. 生活環境分野のクリエイターを目指している人

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 情報デザインや企画デザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 地域産業や地域文化、地域創生の技術・技法を幅広く探求する人
3. 地域社会の課題を多方面に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. ソーシャルデザイン分野のクリエイターやプロデューサーを目指している人

国際文化学部3つのポリシー

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

本学部では、次の能力を備え、学則で定められた所定の課程を修了した学生に学士の学位を授与する。

1. 諸外国と日本の文化について幅広い教養を身につけ、さらにそれを専門的に探究できる。
2. 文化や国際事情に関する自らの知識や考えを論理的に表現する力を有している。
3. グローバル社会で活躍できる高度なコミュニケーション力と問題解決力を有している。

《国際文化学科》

国際文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を備えている。
2. 現代社会の多様な文化や価値観を認識し、いかに行動すべきかを自ら判断できる。
3. 国際社会の動向と問題に高い関心を持ち、その解決方法を広く社会に発信することができる。

《日本文化学科》

日本文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 日本文化について、専門的資料や現地調査を通してその課題を把握し、その問題に対応できる。
2. 多文化社会における日本文化のあり方を、グローバルな視点から相対的に思考・判断することができる。
3. 日本文化について学んで得た知識や考えを、言葉や文章を通して論理的に説明し、社会に広く発信することができる。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

大学のカリキュラム・ポリシーのもと、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科の専門科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

1. 諸外国と日本の文化を学び、現代の国際社会への視野を広げる教育
2. 多様な価値観を積極的に受容し考察する力を養う教育
3. グローバル社会で自らの知見を発信する行動力と表現力を養う教育

《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加えて次のような科目からなるカリキュラムを設置している。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を養う教育
2. アジアや欧米の文化について幅広い知識を育み、国際社会の理解を促す教育
3. 現地実習等を基に多様な価値観を知り、グローバル社会の問題を理解し解決しようとする行動力を養う教育

《日本文化学科》

大学および学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、日本文化学科のカリキュラム・ポリシーを以下のように定めている。

1. 日本文化の専門知識を身につけるため、学科展開科目の中に「日本文学科目」「国語学科目」「民俗学の2つの科目群を設け、さらに、応用・実践力を身につけるための「資格科目」を設けている。
2. 学科専門科目においては、学生の能動的学修を促し、かつ学修の効果を高めるため、それぞれの分野ごとに履修の順序性を設定し、段階的かつ体系的な履修ができるよう教育課程を編成している。
3. 演習科目においては、学生が主体的な学びを実践できるよう、少人数ゼミナール科目を設け、全学年で必修科目としている。また、実践力を高めるための実地演習科目である「文学実地踏査」を、全学生が履修する選択必修科目として配置している。

(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

九州産業大学のアドミッション・ポリシーに従い、一定の学力を有する人材の中から、次の能力と意欲を有する者を選抜し、本学部の学生として受け入れる。

1. 建学の理想と理念を十分に理解したうえで、諸外国と日本の文化理解に興味・関心を抱き、学習意欲の高い人物
2. 学問的関心を常に持ち、それを解決・発信する能力を身につけたい人物

《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加え、次の能力と意欲を持つ人を受け入れる。

1. 英語の高度な運用力を身に付け、さらにその他の外国語を習得する意欲のある人
2. 諸外国の文化や国際事情を幅広く学びたい人
3. 外国語能力や外国文化の知識を活かし、コミュニケーション力を持って広く国際社会で活躍したい人

《日本文化学科》

日本文化学科では、学部の要件に加え、次の能力と意欲を持つ人を受け入れる。

1. 日本文化（文学・言葉・民俗・歴史）に関心がある人
2. 日本文化について、グローバルな視野から学ぶことに意欲のある人
3. 日本文化についての専門的な理解を通して、社会に貢献したいと考える人

人間科学部の3つのポリシー

《学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー》

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位（人間科学）を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 公認心理師や臨床心理士、精神保健福祉士等の対人援助職として、心の問題を持つ人を援助するための基礎的能力がある。

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント（健康経営）の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

《教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー》

人間科学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門基礎科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科それぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 心の問題を持つ人を心理面及び生活面から援助できるように心理学、精神保健福祉学を総合的に学ぶカリキュラムによる教育
2. 公認心理師、精神保健福祉士、臨床心理福祉に分けたコース専門科目により、各現場で活用できる実践力を養成する教育
3. 心の問題を持つ人のコミュニティにおける様々な問題に対応できるように理論系の講義科目のみでなく、演習科目で援助の基礎・応用力を伸ばす教育

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 保育者としての基礎的理論や技能を取得する教育
2. 保育現場での子どもの理解を深め、子育て支援力を取得するための教育
3. 特別支援学校教諭一種免許取得及び卒業研究や演習・実習による実践力形成の教育

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 学際的で専門的な知識のもとに、人々の活動的で健康的な生活を支える力と豊かな発想やコミュニケーション能力によって新たな可能性を開ける教育
2. 新しいスポーツ、健康関連ビジネスに関心を持ち、課題を解決するための企画運営を含めたスポーツマネジメント、健康マネジメント関連科目の体系的な教育
3. スポーツ活動を通じて、指導者として子どもたちの「生きる力」を育成し、適切な指導のもと健康維持・技能向上に貢献できることを目指す教育

(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

人間科学部では、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、心理、スポーツや健康、幼児教育や保育に関心があり、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 心理学や精神保健福祉学に関心があり、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 人の心に寄り添い、適切に援助する態度・技術を学び、社会に貢献したいと考える人

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 子どもの心身の健やかな成長を、支援するための知識や技能の獲得に、意欲的な人
2. 教育や保育の現場に不可欠なコミュニケーション力を、身につけている人
3. 保育に関する文化及び技能の獲得に、意欲的な人

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 人間のからだところどころの健康に興味・関心があり、自らの健康や運動能力を高めると共に、多くの人を支えることに興味をもつ人
2. 子どもから高齢者までの人々の幅広いスポーツ活動や地域社会のヘルスプロモーションに関心があり、社会や産業に貢献したいと考えている人
3. スポーツのもつ文化的価値と意義を理解し、特定の領域、特に競技スポーツ分野において、優れた技能を獲得したいと考えている人

(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

人材養成の目的を達成するために、卒業時において学生が身に付けるべき能力を以下のとおり設定する。学位プログラムの基礎となる学問領域の専門的知識・技能を修得し、合計 124 単位の修得をもって、系統的な履修に基づく人材養成の目的を達成したとみなし、学士の学位を授与する。

1. フードビジネス業界で必要とされる食に関する広い関心を持ち、食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技能及び実践力を身につけている。
2. 所属する学部学科の知識に加え、GFBP や、幅広い学問分野の知識を身に付けることによって、多様な視点を相互に関連付けて、国内外の諸事象を理解できる。
3. グローバルな視点で社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、その課題解決に向けて社会での実践的な行動に移すことができる。
4. 持続可能な社会の発展のための倫理的な態度と責任感を持って、他者とコミュニケーションを取りながら協働できる。
5. 多様な考え方を理解・分析した上で、自分の考えを明確に表現することができる。

(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーに掲げた目標の達成に向け、GFBP 科目と学部横断科目、学科科目を組み合わせ、既存の学部の枠組みを超えた以下のような横断的な教育を実施し、「ビジネス」と「食」、そしてフードビジネスに関連する学びの深化を図る。

1. 初年次教育として、ゼミナールにおいて大学生活における学修の目標を見定め、GFBP 科目の履修目的の確認や「学士力」育成を目指し、学部横断科目、学科科目、KSU 基盤教育科目及び外国語科目を履修できるように科目を配当する。
2. 2年次からはフードビジネスに関する知識や技能を身に付けることを狙いとし、学科科目と GFBP 科目、そして学部横断科目の学修を通して、専門性を高めるとともに自ら問題を発見し解決する能力を高める授業展開とする。
3. 学際的な学びにより新しい価値を創造するスキルの習得を目指し、文理芸融合横断的な教育プログラムを編成する。
4. フードビジネスの専門性の深化を図るため、専属教員による理論・実践融合科目を編成する。
5. 段階的かつ計画的に学びを深めることができるようカリキュラムマップとナンバリング、履修モデルを活用する。
6. グローバルな視点で社会に貢献するために必要な思考力、課題発見力を鍛えるためのフィールドワーク（海外を含む）、英語授業を必須とする。
7. 授業科目の学修成果の評価はルーブリックに基づいて行い、事前にシラバスに示す。

(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を受け入れる。

1. 高等学校卒業レベルの基礎的知識を有し、さらにそれ以外の知識も含めて、幅広く社会や文化に関連する内容に関心を持っている人
2. 学部の専門分野に加え、フードビジネス、経済、経営の分野について強い興味や関心を持ち、マネジメント、テクノロジー等の諸分野を広く学びたいという知的好奇心を有する人
3. 学んだ知識・技能を生かしフードビジネス分野で活躍する意欲を持つ人
4. 食に関する専門知識を身に付け、グローバルな視点で持続可能な社会の発展に貢献する意欲を持つ人
5. 学び得た知識、技能を実社会で実践するための思考力・判断力・表現力の向上に強い意欲のある人
6. 自身の想像力と思いやりをもって、多様な価値観を持つ人々と協力、協働することを学びたい人